

石狩川下流域外減災対策協議会 幾春別川外地域部会(第7回)

- 堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、河川管理者、北海道、市町村等の関係者が連携して減災のための目標・取組方針を共有し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、ハード・ソフト対策を一体化、計画的に進めており、その取り組み状況についてのフォローアップ等を行うため幾春別川外地域部会を開催した。

日 時：令和4年1月28日（金）13：30～15：30

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局（札幌開発建設部）
岩見沢市、美瑛市、三笠市、新篠津村、月形町
気象台（札幌管区気象台）
北海道（石狩振興局、空知総合振興局）
北海道警察

オブザーバー：国土地理院（北海道地方測量部）
北海道森林管理局（空知森林管理署）

報告のあった自治体の取り組み事例

- ・ 出前講座に実際に身近に起きた被害を講話に取り入れる
- ・ ハザードマップを想定大規模降雨に修正
- ・ 出前講座実施に洪水ハザードマップを用いる
- ・ 防災関係有資格者による連絡会議の開催
- ・ 防災ガイドブックに身近に起きた被害の写真を掲載
- ・ タイムラインに56災害の情報を取り入れる
- ・ 自主防災組織によるワークショップの開催とコミュニティタイムラインへの反映
- ・ 地域防災マネージャーとして退職自衛官を採用

など

地域部会の様子（WEB開催）



自治体等主な会場

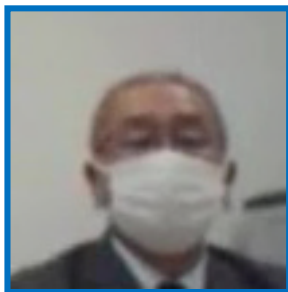


岩見沢河川事務所



札幌開発建設部

※写真を掲載しているのは参加者（会場）のうちの一部です



岩見沢市長

代理出席：総務部長

- 町会や学校を対象に出前講座を行っており、56災害や令和元年の記録的短時間大雨による被害状況等の講話を取り入れることにより、水防意識の啓発を行っている。
- 洪水ハザードマップを想定最大規模降雨によるものに修正を行い、町会・自治会長に配布しホームページや広報紙に掲載することで水防意識の啓発に取り組んでいる。
- 地域防災力の向上、地域防災リーダーの育成を目的に、防災関係有資格者による連絡会議を実施している。



美唄市長

代理出席：危機管理対策室長

- 10号川及び7号川の河床浚渫と雑木の処理を行った。
- 美唄市防災ガイドブックの表紙に56災害時の被災写真を掲載することで、被災された方の記憶の風化を防ぎ、当時、幼かったり、生まれてくる前の出来事であった市民に対しては水害リスクの認識を促し、防災・減災の意識を継承させる。
- タイムラインの作成時に56災害情報を取り入れている。
- コミュニティタイムラインの作成については石狩川の氾濫区域に該当する、被災経験者のいる自主防災組織から先行して作成してもらっている。



三笠市長

代理出席：三笠市消防本部
生活安全センター長

- 岡山地区の冠水対策のため調整池整備事業を完了させ、融雪期において効果を確認。大雨による溢水対策のため萱野川の浚渫、バイパス事業、苗圃の沢川の浚渫作業を実施。
- 規模は小さくとも市内の災害の画像を活用することで、被害を身近にイメージできるように心がけている。
- 災害の経験継承だけに重きを置くと、単なる昔話で終わることが多いので、被害をどれだけ具体的にイメージできるのか、時代に合わせた活用を考える必要がある。
- 防災無線による周知に加え、ヤフー株式会社と災害に係る情報発信等に関する協定を締結し、スマートフォンアプリや、道民の民放地デジデータ放送での住民周知を行う。



新篠津村長

代理出席：総務課参事

- 中学生を対象にした防災教室では授業参観も兼ねており、保護者と一緒に避難訓練を行い、防災訓練において防災の意識を十分に意識してもらえようようにしたい。
- 水害が発生した場合、各地区に指定避難所があるが1階までの施設が3割から4割くらいあるので、自助・共助が重要視されていることから、避難所よりも2階建ての建物に避難することも選択肢として住民に指導していきたい。



月形町長

代理出席：副町長

- 岩見沢河川事務所にご協力をいただきながらタイムラインの読み合わせ、修正箇所の検討を実施。
- 防災地域マネージャーという資格を有した退職自衛官を町職員として採用し防災対策専門員として、防災計画・避難運営マニュアルの見直し、防災訓練や1日防災学校での講師、空き家の対策なども担当してもらっている。